

二〇二三年度

トキワ松学園中学校入学試験

国語 第一回

問題用紙

受験番号

開始と同時に受験番号を
書き入れなさい。

線①～⑩の漢字は読み方をひらがなで答え、カタカナは漢字に直しなさい。

- ① 短編集に収録されている作品。
- ② 賛同する人の署名を集める。
- ③ 新しい総理大臣が就任した。
- ④ みんなで絵本を回覧する。
- ⑤ 校舎の補修工事を行った。
- ⑥ 時間をユウコウに使う。
- ⑦ 水泳の前に準備タイソウをする。
- ⑧ 体育館に作品をテンジする。
- ⑨ 注文した商品がトドく。
- ⑩ 祖母は言葉づかいにキビしい。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（問いの下の数字は本文での行数を示します。）

① すこんと晴れた夏空の下、太陽の光を受けた明るい稲穂^{いなほ}の波がつづく。その波の向こうには、ゆるやかな線をえがいて、いくつもの山々がつらなっている。

右を向いても左を向いても、前も後ろもとにかく緑だ。緑の中に、小川というには少し大きな川のすんだ流れがあり、（あ）見える家の屋根がわらは、なぜだかすべて同じチョコレート色。

② たいくつな風景の中を、マイクロバスはどんどん先へと進んでいく。空港から約二時間と聞いていたけれど、ぜったいにそれ以上は走っているはずだ。

温泉や、ナシの販売所^{はんばいじょ}の看板はあるけれど、コンビニはずいぶん前に通りすぎたきり。人がたくさんいると思ったのは、峡谷^{きょうく}の歩道入り口のみやげ物屋だけで、道を歩いてる人はほとんどいない。

ぼくは窓の外を見るのをやめて、大きいため息をついた。胸のあたりがずうんと重くなる。（こんなところで、一か月も、くらせないよ。）と心の中でつぶやいた。

いっそ、（帰りたいよー!）とあばれてみようか。手足をばたつかせて泣きさげんだら、車を止めて家に帰してくれるかもしれない。せっかくの長い夏休みを、どうしてこんな山の中で、むだに過ごさなくてはならないんだろう。

③ しかし、たとえば東京に帰れたとしても……と考えると、ぼくは絶望的な気持ちになる。

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉 㼊 㼋 㼌 㼍 㼎 㼏 㼐 㼑 㼒 㼓 㼔 㼕 㼖 㼗 㼘 㼙 㼚 㼛 㼜 㼝 㼞 㼟 㼠 㼡 㼢 㼣 㼤 㼥 㼦 㼧 㼨 㼩 㼪 㼫 㼬 㼭 㼮 㼯 㼰 㼱 㼲 㼳 㼴 㼵 㼶 㼷

なくなる。

大学につとめる父^{とう}さんも、国際学会だといってアメリカに行くらしい。つまりこの夏じゅう、ぼくの家はからっぽになってしまうのだ。

だから、学校から「夏休み山村留学―自然の中でたくましく成長しよう!―」と書かれたプリントをもらったときには、^④いやーな予感がしたのだ。これはぜったいに両親に見せてはならないと、通学用のリュックの底にかくしておいた。それなのに、母さんはかつてにリュックの底にまで手をつっこんで、学校でぬいでもったくつしたの横で、つぶれてぺちゃんこになった、三日前の給食のパンにまみれたそのプリントを、発掘^{はっくつ}してしまったのだ。

「あらっ。」

プリントのタイトルに目をとめた母さんは、ていねいにプリントを広げて、しわをのばした。

「えーっと、どれどれ、夏休みの山村留学生を募集^{ぼしゅう}しています。募集するのは高学年の児童で、本校はことしの募集の対象校です。対象校って……あら、三校しかないのね。」

「読まなくていいよ、そんなのっ!」

プリントを取りかえそうとするぼくの手をすばやくかわし、母さんは読みつづける。音楽家だけあって母さんの声は、話をするときにも、小鳥のさえずりみたいなソプラノ。

「期間は七月二十五日から八月二十日^{はつか}まで、村の家庭に滞在^{たいざい}します、だって。」

母さんはプリントから顔を上げ、ぼくに向かってにっこりと笑いかけた。それは、^⑤とてもすてきな笑^え顔^{がお}で、ちょっとぶきみなくらいだった。

「これ、たのしそうじゃない? ううん、ぜったいに楽しいと思う。行ってみたらどう? ううん、ぜったいに行くべ

きよ、ねっ。」

最後のことを発したとき、母さんの顔は、（ い ）首をふるぼくの目の前にせまってきていた。大きくて力強い母さんの目は「行くわよね！」と、²だめおししているようだった。

その日の夕食のときには、

「圭には、いなかぐらしの経験がないからな。おじいちゃんもおばあちゃんも早くに亡くな^なってしまったし。よい機会だから、おもいつきりきれいな空気をすって、この夏は健康的に過ごすといい。」

父さんまでそんなことをいいだした。

「いやだよ！ そんなドいなかでくらすなんて、ぼくにはできない。それに、知らない人の家にとまるなんて、ぜったいにいやだっ。行かないよ！」

とさけんだぼくの声は、母さんの笑顔の前に、むなしく消えた。

「申込書は、先生に出しておくからだいじょうぶ。いろいろと準備しなくちゃね。」

母さんが手に持ってひらひらさせていた申込書には、もうしつかりと高田圭^{たかだけい}・小学五年生と記入され、保護者印もばっちりおされていた。山村留学は、決定してしまったのだ。

しかし、³いくらうまいことをいっても、^⑥けつきよくは全部おとなのつごう。

まだ小学生のぼくを、夏休みちゅう、ひとりで家においておくことはできない。でも母さんも父さんも、仕事で家をあけなければならぬ。どうしたらよいのかと思っていたところに、夏休みちゅう、ぼくのめんどろをみってくれる山村留学は^⑦「^{ふね}渡りに舟」の企画^{きかく}だったのだ。

だから、プリントを見せるのはいやだったんだ、だから……。見つからないうちに、すてておくべきだったんだ。

だから……。

母さんが山村留学の申込書を学校に提出した日の放課後、教室を出ようとしていた頃は、担任の若月先生に呼びとめられた。

「申込書、お母さんからあずかったよ。」

ぼくの気持ちも知らず、先生は窓べの生徒の席にすわってにっこり笑った。二十八歳独身、いつも同じ青色ジャージの上下。生徒には人気者だけど、彼女はいいといううわさ。

しかたなくぼくも、となりの席に腰をおろして、先生のほうを向く。

「先生、さよならー。」

呼びとめられてすわっているぼくを（う）見ながら、クラスみんなはバタバタと帰っていった。教室はとたんにしんとして、みんながたてたほこりだけが、窓からさしこむ光の中で（え）おどっている。

先生は、はずんだ声で話しはじめた。

「山村留學生を募集している、わらび村っていうのは、面積の七割近くが山林という村でね、小学校は村に一つしかないんだ。しかもその学校、年々子どもの数がへっていて、いまでは全校生徒を合わせてもたったの三十一人だけ。だから、村の外から子どもを招いて、村の子どもたちとの交流を深めてほしいということで、山村留学が企画されたらしいよ。」

先生は、1 自分が参加するみたいにな、うきうきしている。

反対に、ぼくの気持ちは、さめきつていた。

「ふうん、先生、くわしいんですね。」

「うん、送られてきた資料も読んだし、インターネットでも調べてみたから。」

なるほど、机の上にはプリントやパンフレットがのっている。

「交流を深めるっていったって、募集はたったの十人じゃないですか。」

「ああ、それはね、ほらここ。」

先生は、資料のプリントを指さした。

「村では、農村体験ホームステイというのをやっていてね。何年か前から、中学生は受けいれているんだ。でも小学生を受けいれるのは今回がはじめてだから、実験的に東京の小学校、それも高学年の児童だけを少人数、募集することになったみたいだよ。」

「実験的につて、それ、なんか、ひどくないですか？」

ぼくが本気でむかついたのに、先生はそんなことどうでもいいみたいに、にこにこしながら話しつづけた。

「いずれは村の人が里親さとおやになつて、長期間子どもをあずかるということも考えられているらしいよ。過疎化かそかのすすむ村はどこでも、村を活性化させようと、いっしょうけんめいなんだ。北海道ほっかいどうから沖縄おきなわまで、二百をこえる学校で、山村留学がおこなわれているんだよ。」

ぼくは、（お）大きく息をはいた。

「そんなこと、どうでもいいです。ぼく、べつに行きたくて行くわけじゃないから。母さんたちが、かつてに行かせたがつてただけだから。」

むすつとしながらいと、先生はぼくのことばにちょっとおどろいたみたいだった。

⑩ 少しがあつて、先生はいった。

「先生の実家は兵庫県の山の中にあってね。なんていうか、そういういなかのことを、みんなにもっと知ってほしいと思っているんだ。それに、いなかの子どもたちには、都会の子どもものよいところをいっぱい知ってほしいし。だから、高田君が行ってくれるって聞いて、ほんとにうれしんだよ。」

ぼくはそれ以上、むすつとした顔ができなくなった。でも笑顔にもなれなくて、ただ下を向いたまま、「もう帰ります。さよなら。」

そういつて、リュックのひもを片方の肩にひっかけて、立ちあがった。

わらび村のことも、若月先生の気持ちも、わからないわけじゃない。しかし残念ながらこの企画、失敗だったのではないだろうかと、ぼくは思う。

山村留学の定員は十人だったのに、申し込み時点での希望者は、たったの五人しか集まらなかったのだ。

あたりまえだ。高学年にもなれば、中学受験のための夏期講習にかよう子だってたくさんいるし、受験勉強とまではいなくても、塾や習い事でみんないそがしいはず。リトルリーグやサッカーチームだって、夏休みはほとんど毎日練習だ。ぼくだってけっきょく、塾とスイミングを一月も休むことになるのだ。

海外留学とでもいうのならともかく、だれがこのんで山村留学なんか――。

しかも出発の前日であるきのうになって、若月先生から電話がかかってきた。参加するはずだった五人のうちふたりが、急にとりやめたという。ひとりは家族でハワイ旅行に行くことになり（よい選択だ）、もうひとりは食中毒（なるほどその手があったか）。

「けっきょく、三人だけになっちゃったなあ。うちの学校からは高田君ひとりか。気をつけて行ってこいよ。宿題もちゃ

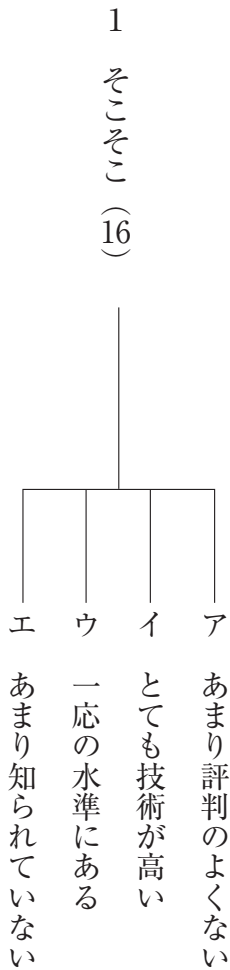
んとやるんだぞ。帰ったらみんなに話を聞かせて……。」

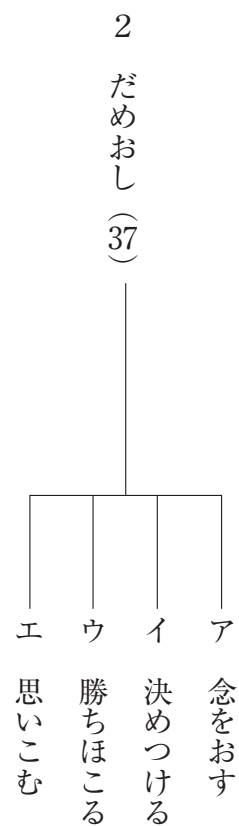
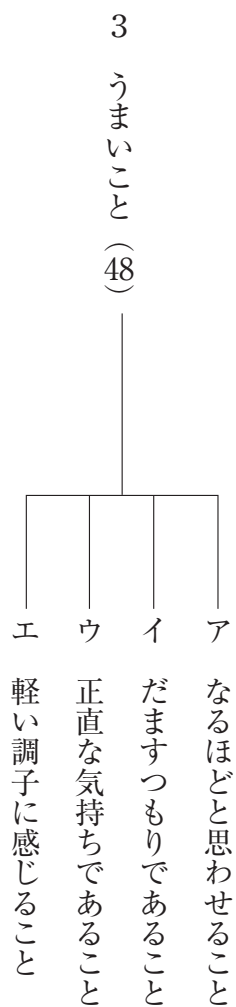
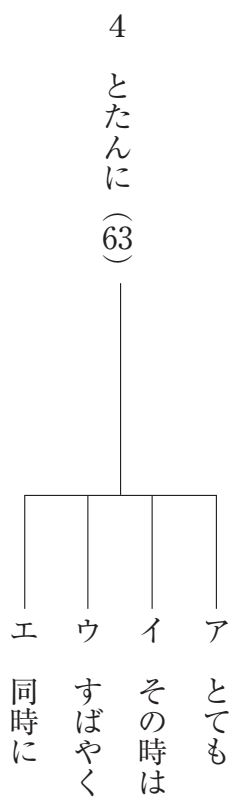
先生はほかにもいろいろといていたような気がするけれど、ぼくは聞いていなかった。ぼくの頭の中では、(たったの三人だって? こんな企画、中止にしなくてもいいのだろうか!)——そんなことばがぐるぐるとうずまいていたからだ。

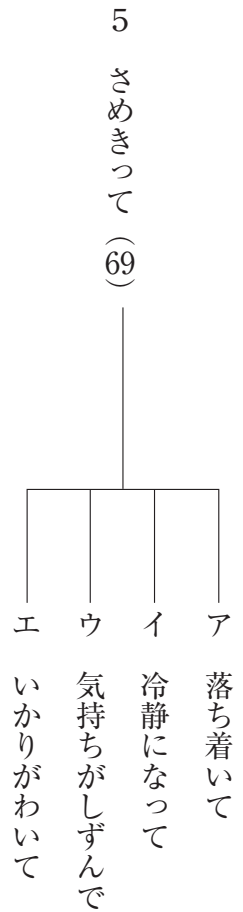
(出典 中山聖子『三人だけの山村留学』)

問一 ~~~~~線1~5の言葉の本文中での意味として最もふさわしいものを、それぞれ下のア~エの中から一つ選ん

で、記号で答えなさい。(16、37、48、63、69)







問二 (あ) (お) に入る言葉を次のア～カの中からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

(4、36、62、63、84)

- | | | | | | |
|---|--------|---|-------|---|-------|
| ア | くるくると | イ | ぼつぼつと | ウ | えんえんと |
| エ | ぶるんぶると | オ | ふうつと | カ | ちらりと |

問三 ——— 線①「すこんと晴れた夏空」とありますが、それはどのような空ですか。最もふさわしいものを次のア～

エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。(1)

- ア よく晴れた夏の空だが、主人公にとってはあまりうれしい気持ちになれないことを表している。
- イ よく晴れた夏の空だが、主人公にとってはこれからどこにいくのか不安でたまらない気持ちを表している。
- ウ よく晴れた夏の空だが、主人公にとっては父さんや母さんに対するいかりが収まらない気持ちを表している。
- エ よく晴れた夏の空だが、主人公にとっては見なれない場所に対してとまどっている気持ちを表している。

問四 —— 線②「たいくつな風景」とありますが、どのようなところが「たいくつ」のですか。本文中の言葉を使って説明しなさい。(5)

問五 —— 線③「たとえ東京に帰れたとしても……」とありますが、「……」の部分にはどのような言葉が入りますか。考えて書きなさい。(14)

問六 —— 線④「いやーな予感がしたのだ。」とありますが、それはどのような「予感」ですか。最もふさわしいものを次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。(21)

- ア 通学用のリュックの底にかくしても、母さんがいつものようにプリントを発掘してしまう予感。
- イ 母さんがほくにことわらずに勝手にリュックを調べて、プリントを見つけてしまうという予感。
- ウ もしこのプリントを母さんが見つけると、山村留学をさせられてしまうのではないかという予感。
- エ 母さんが山村留学のプリントを読むと、かならずその内容が気に入ってしまうだろうという予感。

問七——線⑤「とてもすてきな笑顔で、ちょっとぶきみなくらいだった。」とありますが、それはどのような「笑顔」

ですか。最もふさわしいものを次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。(32・33)

ア とてもいいことを思いついたという笑顔だが、もうその考えは変えられないという感じがすること。

イ 心から自分の思いつきを楽しんでいる笑顔だが、それが子どもっぽくわがままな感じがすること。

ウ 自分の思いつきに自分ながら感心している笑顔だが、心から楽しんではない感じがすること。

エ 自分が思いついたことで問題が解決するという笑顔だが、なにかをかくしている感じがすること。

問八——線⑥「全部おとなのつごう。」とありますが、それはどのような「つごう」ですか。本文中の言葉を使っ

て説明しなさい。(48)

問九——線⑦「渡りに舟」とありますが、それはどのような意味で使われていますか。最もふさわしいものを次の

ア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。(51)

ア 助けてほしい時に、だれも来てくれないこと。

イ 困っていた時に、ちょうどいいことに出会ふこと。

ウ 楽をしたと思った時に、いい考えが浮かぶこと。

エ 急いでいる時に、むずかしい問題がなくなること。

問十 ——— 線⑧「先生は、はずんだ声で話しはじめた。」とありますが、それはなぜですか。本文中の言葉を使って説明しなさい。(64)

問十一 ——— 線⑨「山村留学」について説明した次のア～エのうち、正しいものはどれですか。ア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。(67)

- ア 全国から小学生や中学生を招き、村の現状を知ってもらいたいというねらいがある。
- イ 山村留学の目的は、都会の子どもたちに自然の中で農業体験をしてもらうことである。
- ウ 年々へっている村の子どもたちと、都会の子どもたちとの交流を深めるために企画された。
- エ 農村体験ホームステイは、実験的に子どもを長期間預かることで村を活性化させる試みである。

問十二

1

 に入ることばを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。(68)

ア とにかく イ なるほど ウ それどころか エ まるで

問十三 ——— 線⑩「少し暑があつて、先生はいった。」とありますが、先生はなぜ少し暑をあげたのですか。本文中の言葉を使って説明しなさい。(88)

問十四 ――線⑪「残念ながらこの企画、失敗だったのではないだろうか、ぼくは思う。」とありますが、それはなぜですか。本文中の言葉を使って、説明しなさい。(96・97)

問十五 次のア～オのうち本文の内容と合っているものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 主人公の高田圭は都会育ちの小学五年生で、わがままな性格をなおすために両親が山村留学に行かせることにした。

イ 主人公が山村留学をいやがるのは、両親が夏休みに自分をおいて海外に行ってしまうことを許せないと思っているからだ。

ウ 主人公の母親は山村留学のすばらしさに感心し、担任の若月先生と協力してなんとか子どもに参加してほしいと説得した。

エ 主人公はいいや山村留学に参加することになったが、若月先生の実家の話を聞いたことで気持ちが少しずつ変わっていった。

オ 主人公は両親によって強引に山村留学に参加させられることになったが、バスが村に近づくにつれて絶望的な気持ちになっている。

